



# 第159期 中間期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

日本板硝子株式会社

ルブリン(ポーランド)に建設された最新鋭のバスターミナル。「進歩、近代性、環境への配慮」を象徴する建物として、NSG TEC™を使用する太陽光発電パネルが設置されています。

## ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第159期中間期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

日本板硝子株式会社  
取締役 代表執行役社長兼CEO

細沼 宗浩



## 第159期中間期の総括と下半期の見通し

当期中間期の当社グループの事業環境は、主要通貨の円安や欧州の天然ガスを中心とした原燃材料コストの安定的な推移の恩恵を受けましたが、欧州の経済減速と世界的なインフレ傾向に伴う人件費等のコスト上昇の影響を大きく受けました。建築用ガラス事業は特にその影響を強く受け、欧州で販売価格が大きく低下し、その他の地域でも需要が減速しました。一方で太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調でマレーシアの新設備も収益に貢献しました。自動車用ガラス事業は人件費等のコスト上昇を吸収するための価格転嫁をさらに実現することができましたが、欧州で自動車生産が減少し、また日本や北米では一部取引先での生産停止の影響を受け、多くの地域で販売数量の回復が鈍化しました。高機能ガラス事業は多くの事業で需要が回復し、高い収益性を維持しています。

金融費用は、市場金利が欧州で低下し米国でも低下の兆しがあるものの、日本では上昇傾向にあり、前年比減少したとはいえ依然高水準となっています。持分法による投資利益は、ブラジルのジョイント・ベンチャーを中心に改善しました。なお、前年はロシアにおけるジョイント・ベンチャー売却に伴い一過性の利益を計上しました。

その結果、当中間期の売上高は4,224億円(前年同期は4,202億円)、営業利益は102億円(前年同期は260億円)、親会社の所有者に帰属する中間損失は39億円(前年同期は98億円の利益)と前年同期比増収減益で、売上高は業績予想を上回りましたが、利益は下回りました。

下半期の事業環境については、欧州経済が回復しても緩やかなものとなり、引き続き人件費等のコスト上昇の影響を受ける見通しです。この厳しい事業環境に対する施策として、建築用ガラス事業では6月にドイツのフロート窯1基の生産休止を実施しており、さらに来年1月に1基の生産休止を実施することを公表しました。これにより稼働率改善による固定費削減と需給改善による販売価格上昇を目指します。自動車用

ガラス事業では潜在的に強い自動車需要を背景に販売数量は緩やかに回復していく見込みであり、引き続き販売価格改善も推進していきます。高機能ガラス事業でも需要の回復が継続する見込みです。

グループ全体でのコスト削減等あらゆる施策を実施し、利益改善に努めます。

## 中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」

5月に2025年3月期～2030年3月期を対象とする新しい中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」を公表しました。

同期間においては「企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す」ことをゴールとし、収益性を向上させキャッシュ創出力を高め、財務基盤を改善することに徹底して注力します。そのために4つの「D」(Business **D**evelopment、**D**ecarbonization、**D**igital Transformation、**D**iverse Talent)を戦略方針の柱に据え、2027年3月期に営業利益640億円、営業利益率7%、フリー・キャッシュ・フロー270億円、自己資本比率15%の財務目標達成、さらには2030年3月期には営業利益率10%以上を目指します。

## 配当について

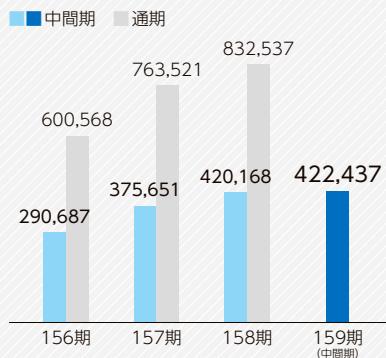
当社グループは、持続可能な事業の業績と財務基盤をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としております。当中間期の普通株式配当につきましては、当社グループの業績および財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら、その実施を見送らせていただくことといたしました。

配当は株主の皆様にとって非常に重要なものであると認識しており、中期経営計画を通じて、グループ一丸となって業績改善、財務基盤の強化に全力を傾けていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。 2024年11月

## 業績ハイライト

### 売上高 (単位:百万円)



### 営業利益 (単位:百万円)



### 親会社の所有者に帰属する中間(当期)利益(△は損失) (単位:百万円)



注1:当社は国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。  
注2:上記に記載の営業利益は、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

## NSG at a Glance

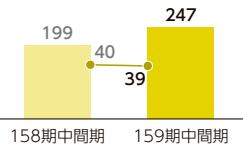
### 高機能ガラス

6%

- 日本、中国、欧州に主要製造拠点
- ニッチ市場でNo.1/Only 1

- ・プリンター用レンズやガラスコード等、多くの事業で需要が回復し、増収。
- ・コスト増の影響を受けるが、営業利益は前年同期と同水準を維持。

■ 売上高 ● 営業利益 (単位:億円)



### 自動車用ガラス

51%

- 13か国に主要製造拠点
- 補修用ガラスの流通・販売で世界最大級

- ・販売数量の回復ペースが鈍化したものの、価格改善交渉の進展および円安の影響を受け増収。
- ・一方で、投入コストの増加を十分に吸収できず、減益。

■ 売上高 ● 営業利益 (単位:億円)



事業別連結売上高構成比  
2024年4月1日～2024年9月30日

### 建築用ガラス

43%

- 世界に27のフロート窯
- 薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー
- ・欧州を中心に多くの地域で販売数量の減少と販売価格の低下の影響を受け、減収減益。
- ・太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調。

■ 売上高 ● 営業利益 (単位:億円)



## 中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」の取り組み

当社グループは、2025年3月期を初年度とする中期経営計画において、4つの「D」を戦略的な柱に据え、収益性の強化、キャッシュ創出力の強化による有利子負債の抜本的な削減を推進し、自己資本の増強を目指して取り組んでいます。

今回は、「Business Development」と「Decarbonization」の取り組みをご紹介します。

### NSGグループ戦略方針 4つの「D」

#### Business Development

新製品および  
事業開発の強化

#### Decarbonization

社会の脱炭素化への貢献

#### Digital Transformation

デジタルをフル活用した  
付加価値の高い  
オペレーションの構築

#### Diverse Talent

フェーズシフトをもたらす  
真に多様で包括的な  
チームの実現

中期経営計画の詳細はこちらをご参照ください

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j01.pdf)



## Business Development (新製品および事業開発の強化)

「Business Development」として、脱炭素化を始めとする社会課題の解決に貢献する新製品および事業の強化に取り組んでいます。世界初の技術を生み出してきた歴史と技術に誇りをもち、社会の変化やお客様のニーズに適した高付加価値製品を開発・提供し、収益性の向上にもつなげてまいります。

### Business Developmentを通じて強化する戦略製品の例

#### 建築用ガラス事業

- ・ 建築物の脱炭素化に貢献する製品
- ・ ソーラー技術の可能性を高める製品



#### 自動車用ガラス事業

- ・ 自動車産業の進歩に貢献する製品



#### 高機能ガラス事業

- ・ 高性能部品の開発を可能にする製品
- ・ マイクロプラスチックの削減等、環境に貢献する製品

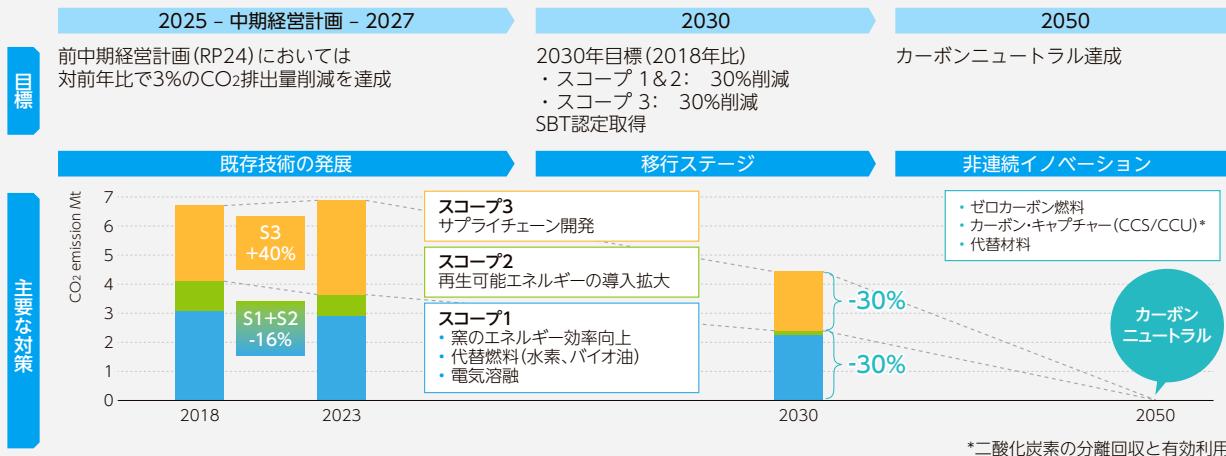


## Decarbonization (社会の脱炭素化への貢献)

エネルギー集約型・炭素集約型の製造業である当社グループにとって気候変動への取り組みは必要不可欠であり、サプライチェーン全体を通じた「Decarbonization」に取り組んでいます。

当社グループは、2050年のカーボンニュートラルの達成をコミットし、2030年までにCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1、スコープ2、スコープ3)を2018年比で30%削減することを目標としています。このロードマップの実現により、CO<sub>2</sub>排出量の削減、ひいては当社事業による貢献(サステナビリティと製品)の継続的な開発と当社事業に関連する機会の拡大につなげてまいります。

### 2050年カーボンニュートラル達成へのロードマップ



最新の取り組み事例を一部ご紹介します。今後も「Decarbonization」の取り組みを進めてまいります。

#### 英国事業所にグリーン水素製造プラントを設置

本プラントは2025年に英国のグリーンゲート事業所内に建設を開始し、2027年より、本プラントで生成された水素を活用して、当事業所内のフロート窯においてLowカーボンガラスの生産を行う予定です。

本プラントは水素生成プロセスに再生可能エネルギーを使用し、1日あたり最大7トンのグリーン水素を生成する計画であり、すべて当事業所のフロート窯の燃料として供給されることで、年間15,000トンのCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。



#### 自動車メーカーへのリサイクル率の高い素材の提供

自動車業界では環境問題への対応として、循環型経済への移行の要求が高まっており、リサイクルへの取り組みが積極化しています。

当社では、そうしたニーズにお応えすべく、自動車メーカーへのリサイクル率の高い材料の提供に取り組んでいます。リアクォーターやリアガラス等のエンキャップに使用する材料の一部は既に検証済みであり、フロントガラス用仕上げ剤の検証を進めています。これらの材料は質量の50%以上がリサイクル材料で出来ており、部品のカーボンフットプリントを最大20%削減すると期待されています。



S(左): Standard Material



\*標準的なバージョン材との比較

## 1 国内初、「スペーシア®」が真空ガラスのJIS認証を取得

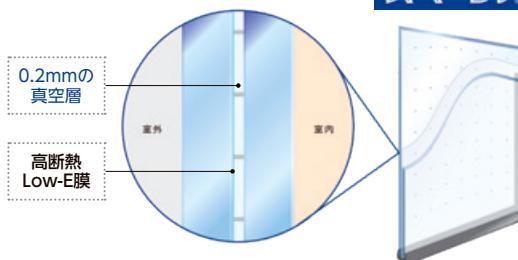
本年6月、当社の「スペーシア®」が、国内で初めて真空ガラスのJIS（日本産業規格）認証を取得しました。「スペーシア®」はガラスの間に真空層を保持する真空ガラスで、一般的な複層ガラスを上回る高断熱性能を有しています。1997年に世界で初めて実用化に成功して以来、真空ガラスのパイオニアとして国内外で好評をいただいております。今回のJIS認証取得を機に、省エネルギー、カーボンニュートラル実現に貢献する製品として一層普及していくことが期待されます。「スペーシア®」の詳細は、右記QRコードよりご覧いただけます。

<https://shinku-glass.jp/>



※QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

真空ガラス  
スペーシア®



世界で初めて実現された真空テクノロジー。  
2枚のガラスの間にある真空層が熱の「伝導」と「対流」を防ぎ、Low-E膜が「放射」を抑えます。

## 2 環境配慮型高機能リサイクル繊維の事業化に向け共同検討開始

当社、電源開発株式会社、新日本繊維株式会社の3社は環境配慮型高機能リサイクル繊維（BASHFIBER®）の事業化に向け共同検討を開始します。BASHFIBER®は各産業で生じる石炭灰等を原料とする連続長繊維で、副産物を天然資源の代替に使用することでCO<sub>2</sub>排出量を削減しリサイクルできる繊維補強材として、建築・土木や自動車など様々な分野で大きな可能性を有しています。この取り組みは、経済社会課題の解決に資する革新的な技術として、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援事業に採択されました。

【BASHFIBER®製品群】



〈クロス〉

〈ヤーン〉

〈ローピング〉

〈チョップドストランド、フレーク〉

## 3 「Gomez ESGサイトランキング2024」の優秀企業に選出

「Gomez ESGサイトランキング2024」は、上場企業のESGサイトを幅広いステークホルダーの視点から評価するランキングで、今年は上位169社が優秀企業に選出されました。近年、ESG投資が世界的に浸透する中、ESG情報への注目度は益々高まっています。当社はこれからも積極的な情報発信に取り組んでまいります。



## 4

日経CNBC  
「トップに聞く」に出演

当社社長の細沼宗浩が、マーケット・経済専門TVチャンネルである日経CNBC「朝エクスプレス」内の「トップに聞く」に出演しました(2024年8月5日放送)。この「旬の上場企業・団体のトップをゲストに招き、成長戦略や競争環境などをじっくり聞く」トーク番組の中で、当社グループの事業や経営戦略について語っています。下記QRコードよりご覧いただけますので、ぜひご視聴ください。



(写真左:日本経済新聞 キャスター 守田 正樹さん、  
同右:当社社長 細沼 宗浩)

<https://www.youtube.com/watch?v=SRL7LU8Gmwg>



## 表紙写真について



本年、ポーランド南東部の都市ルブリンに最新鋭の巨大バスターミナルがオープンしました。その屋根には当社の透明導電膜付ガラス「NSG TEC™」を使用した最新太陽光発電パネルが約6,500平方メートルにわたり設置され電気を供給しています。この建設プロジェクトはエコロジーに関する数々の先進的な取り組みが評価され、現地のグリーンビルディングアワードにおいて最優秀環境プロジェクトの一つに選ばれました。

## 役員 (2024年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

## 取締役

独立社外取締役 取締役会議長	石野 博 指名委員長
独立社外取締役	ヨーク・ラウパッハ・スミヤ 指名委員 監査委員 報酬委員長
独立社外取締役	皆川 邦仁 指名委員 監査委員長 報酬委員
独立社外取締役	浅妻 慎司 指名委員 監査委員 報酬委員
独立社外取締役	桜井 恵理子 指名委員 報酬委員
取締役	細沼 宗浩 指名委員 報酬委員

## 執行役

代表執行役社長兼CEO	細沼 宗浩
執行役会長	森 重樹
執行役常務	レオポルド・ガルセス・カスティージャ
執行役常務	日吉 孝一
執行役常務	岡本 久
執行役常務	大河内 聡人
執行役	ロブ・パーセル
執行役	マイク・グリーンナル
執行役	デニス・ヘイラー
執行役	神林 正樹
執行役	ミハエル・キーファー
執行役	小林 史朗
執行役	中辻 陽平
執行役	イアン・スミス

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 (郵便物ご送付先)	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話ご照会先)	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00 (土日休日を除く)

### ▶ ご住所変更などのお届出およびご照会について

#### 〈証券会社に口座をお持ちの株主様〉

取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

#### 〈証券会社の口座をお持ちでない(特別口座の)株主様〉

上記の(電話ご照会先)までお問い合わせください。

サステナビリティへの取り組みを通じて、  
持続可能な社会の実現に貢献します



## 会社概要 (2024年9月30日現在)

商号	日本板硝子株式会社
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産東京三田サウスタワー)
設立	1918年11月22日
従業員数(連結)	25,673人
資本金	116,890百万円
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202)
お問い合わせ	<a href="https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us">https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us</a>

### ▶ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と合わせて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、左記 ▶ [ご住所変更などのお届出およびご照会について](#)に記載の照会先にお問い合わせください。

### 当社ウェブサイト・SNSのご案内

当社ウェブサイトでは、決算情報や最新ニュースなど、投資家の皆様への様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



<https://www.nsg.co.jp/>

Facebook



X(旧Twitter)



Follow me!

当社公式  
SNSキャラクター  
Nグマくん



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。

